

# 第7章

## 計画の推進

# 1 計画の実行体制

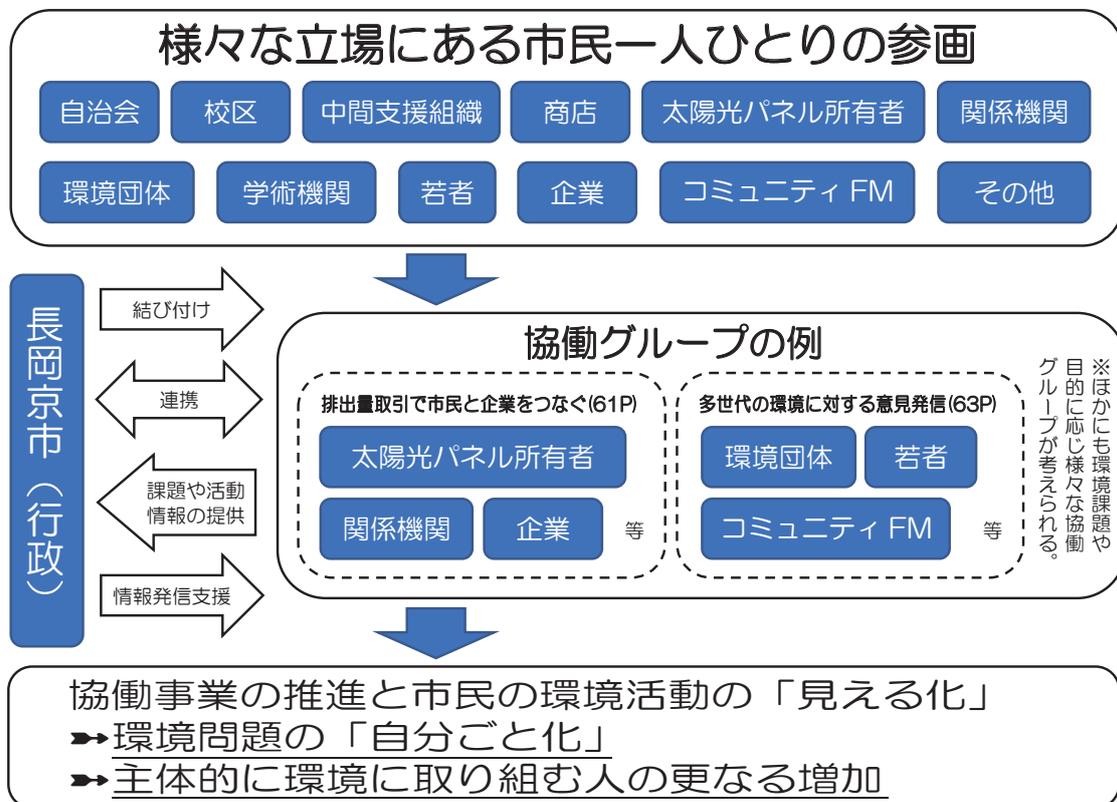
計画の実行は、市民、団体、事業者、関係機関等と協働して進めていきます。庁内においても、環境部局のみが行うのではなく、全庁的に取り組む必要があります。そのため、各主体と、長岡京市第三期環境基本計画の内容について共有することが重要です。

## (1) パートナーシップの形成

第一期の長岡京市環境基本計画から通して、市民や団体、事業者等とのパートナーシップの重要性を説いてきました。SDGsの17番目のゴールにパートナーシップが定められているように、長岡京市第三期環境基本計画においても、その点を重要視しています。特に、第5章の分野横断的視点及び施策、第6章の人結び・SDGsモデルプロジェクトを推進するためには、市民・団体・事業者等と行政との協働がキーワードになってきます。

長岡京市第二期環境基本計画では、環境施策を市民協働で推進するため、「ステップアップ・チャレンジ会議」という名称のプラットフォームを用意し、その場への市民参画を経て、環境への取り組みのアイデアを事業化するなど、一定の成果を得ました。

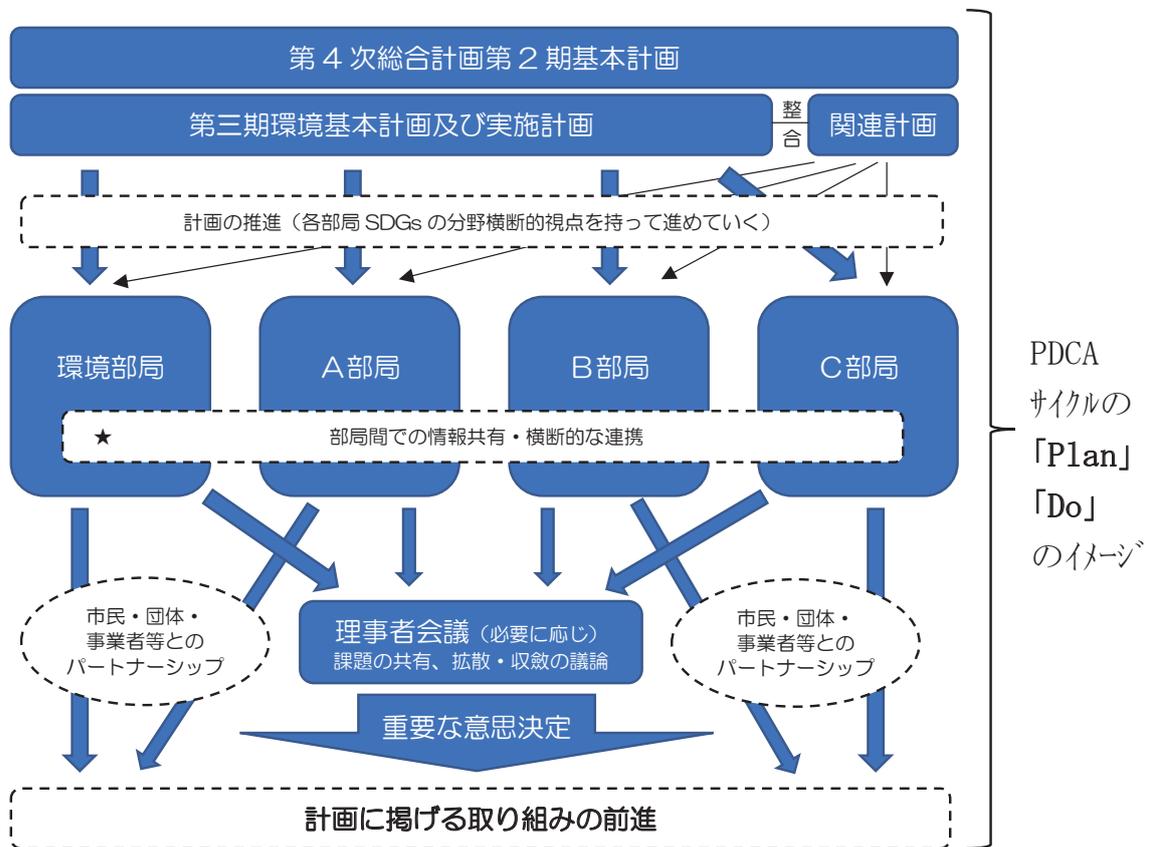
第三期環境基本計画では、広範にわたる環境課題に、より加速度的に対処するため、環境課題や目的に応じ、既存の主体同士を結び付け、多方面での協働グループの形成を促します。さらに、そこでの活動を積極的に情報発信することで、市民の活動の「見える化」を行い、「市民→市民」への啓発を活発化し、環境問題の「自分ごと化」を促します。



パートナーシップによる環境施策の推進にあたっては、目的・目標を共有することが重要です。また、それを達成するための手段については、パートナーの相手の力が最大限に発揮されるよう、相手の立場を尊重することが大切です。

## (2) 庁内体制

環境への取り組みは、環境部局のみが行うことではなく、他部局の事業の中で行うことも多いことから、各部局において第三期環境基本計画の内容を理解し、事業を実施する中で、主体的に環境の視点、ひいてはSDGsの視点を取り入れることが重要です。令和3年4月スタートの長岡京市第4次総合計画第2期基本計画においても、SDGsの分野横断的視点が重要であると言及しています。その他、関連計画との整合を図りながら進めることも重要です。そのため、日頃から担当者レベルの庁内連携を密にして計画を進めていくことはもちろんですが、重要な意思決定を伴う場合には、定期的に行われる理事者会議の場を活用し、課題の共有や、拡散・収斂の議論を進めていくことが重要です。



PDCAサイクルにのっとりた第三期環境基本計画及び実施計画の「Check」については次ページ「2 計画の進捗管理」に記載のとおり、「長岡京市生活環境審議会」が担い、そこで評価や提言は、必要に応じ第三期環境基本計画実施計画に反映し、部局間での共有を行い、新たな「Action」へとつなげます。

### (3) 人材の積極的な活用と育成

今回の計画策定にあたって行った市民アンケートにおいては、回収率49.6%という結果であり、環境に対する市民の関心は非常に高いものと思われます。環境問題は一人ひとりの行動の積み重ねによって引き起こされる面が多くあるため、市民から市民への啓発を推進することが重要です。そのため、地域で環境の取り組みの輪を広げていただけるような人材と積極的に関係性を構築し、環境施策を推進していきます。

### (4) 国や京都府、関係機関との連携

国や京都府、関係機関の施策動向にアンテナを張り、情報共有とともに連携していくことが重要です。特に気候変動対策の分野は、エネルギー政策をはじめ動向の激しい分野です。国や京都府など、広域行政だからこそできる取り組みもありますので、協力体制を構築し、施策を推進することが重要です。

## 2 計画の進捗管理

計画を着実に実行するため、長岡京市第三期環境基本計画の実施計画を策定します。実施計画は可能な限り客観的な目標を設定し、進捗状況を分かりやすく評価・公表し、透明性の確保に努めます。

計画の進捗評価にあたっては、学識者や市民など、外部委員の目を通して、定期的に検証することが重要です。その役割は長岡京市生活環境審議会が担うこととします。

また、必要に応じ、実施計画の見直しを行い、計画の実効性を維持するため、適切にPDCAサイクルを回すことが重要です。見直し内容の検証についても、長岡京市生活環境審議会が担うこととします。同審議会はその他、市への施策提言などを行います。

